

ポリフォニーとしての学校

コンピテンシー
-未来を切り拓く資質・能力と豊かな教養を兼ね備えた市民の育成-



キーワード

主体的・対話的で深い学び 文理統合的視点 カリキュラムマネジメント 理数探究 社会に開かれた学校

2020年2月14日(金) 13:30 - 17:30 公開授業 他		2020年2月15日(土) 9:30 - 12:00 Zone 研究発表	
13:00	受付開始	09:00	受付開始
13:30-14:00	全体会	09:30-12:00	Zone A SSH
14:00-16:30 公開授業	英語科・家庭科・社会科・ SSH理数融合・国語科 及び研究協議		Zone B 学校改革 Zone C 高大接続カリキュラム Zone D 探究-新しい学びの形
16:30-17:30	生徒による学習成果報告会・ SSHポスター発表 I	12:00-13:00 (昼食休憩)	(同時開催) SSHポスター発表 II SSH企業・大学連携に関わる ブース展示
17:30-	情報交換会		
2020年2月15日(土) 午後の部 13:00 - 15:00 記念講演			
講師 石黒 浩 先生 (大阪大学教授 未来思考学会代表理事) 「人と関わるロボットの研究と人間理解」			

参加受付

<http://www.nara-wu.ac.jp/fuchuko/>

2月7日(金) 参加受付 締め切り

主催：奈良女子大学附属中等教育学校・奈良女子大学 後援：奈良県教育委員会・奈良市教育委員会

1. 英語科 2年(中2)「支え合い共に学び合う集団の育成 ー現在完了の指導を通してー」

【授業者】 大菅 暢子

【指導助言者】 泉 恵美子先生(関西学院大学 教育学部 教授)

【概要】昨今、ゲーム感覚で英語を学習することのできる教材が巷にあふれています。そのような時代に学校の英語の授業でしか生徒が経験できないことは何か。やはりそれは相手を知り、自分のことを伝える楽しさや喜び、そして共に支え合う集団のなかで英語が分かった嬉しさを実感できることだと考えます。今回の授業では、即興的なやりとりを通して相手を尊重し、間違いを恐れず間違いから学ぶ集団の育成を模索したいと思います。

2. 創作科(家庭) 4年(高1)「身近な食品を題材にした探究授業の開発」

【授業者】 永曾 義子

【指導助言者】 中田 理恵子先生(奈良女子大学 生活環境学部 准教授)

【概要】私たちの身の回りには、ちょっとした性質や構造の違いなどから異なる結果が現れる食品が多くあります。日本人にとって最も身近な米においても、うるち米ともち米、さらに玄米や胚芽精米、インディカ米など比べてみると面白い違いが見えてきます。そこで、生徒たちにも、身近な食品を使い比較の仕方によって現れる違いは何から来るものなのかを調査、実験などから解いていく探究活動を家庭科授業の中で実践し、将来の生活を切り拓く豊かな教養を育成したいと思います。

3. 社会科(公民) 5年(高2)「哲学者との『対話』～今を生きる高校生は『知への愛』をどう表現するか～」

【授業者】 中村 博之

【指導助言者】 小玉 重夫先生(東京大学大学院 教育学研究科 教授)

【概要】高校教科書『倫理』に登場する西洋近代を代表する数名の思想家を取り上げ、それらの考え方と対話することがこの授業の目的です。対話は、生徒個人が思想家と心の中で行うものから、数名のグループ活動による対話までいくつかの方法が考えられますが、どの方法を取るかは現在未定です。当日までの授業進度や展開次第で、取り上げる思想家も変わりますが、現在のところスミス、カント、ヘーゲル、マルクス等を想定しています。

**4. SSH 理数融合 5年(高2) 物理・数学の融合授業 「『熱平衡』の数理モデルを作成する」
(当日は物理の授業を公開)**

【授業立案者】 守本 寛治・吉岡 睦美(奈良教育大学附属中学校人事交流)

【指導助言者】 高須 夫悟先生(奈良女子大学 理学部 教授)

宮林 謙吉先生(奈良女子大学 理学部 教授)

【概要】本校では2015年度から理数融合授業の開発に取り組んでいます。今年度は「平衡」に関連する現象について物理と数学の視点から展開します。物理や化学で扱われる「平衡」現象では、物理量の変化を数式で表したときにすべての数式で共通した特徴がみられます。本授業では力学的平衡の現象が起こる「空気抵抗がある物体の落下運動」のグラフを「微分法」などを用いて作成します。その後、これまでの数学的手法を活用し、「熱平衡」現象を説明できるような数理モデルの作成を試みます。

5. 国語科 6年(高3) 論理国語・古典探究「高校国語科新科目の研究～参加型公開授業～」

【授業者】 二田 貴広(論理国語)・神徳 圭二(古典探究)

【概要】2022年度より高等学校において新指導要領に基づく授業が始まります。国語科は「現代の国語」を始め科目が一新します。今年度の公開授業では、新科目を本校国語科として分析し、提案授業として実施いたします。「論理国語」では文芸評論を題材に、文学の学びと論理の学びの融合を試み、「古典探究」では定番教材を題材に、古典における探究学習の方途を模索します。

※なお今年度の公開授業はその場では授業をせず、事前に収録した映像を視聴し、それを基に参会者の皆さまともに対話形式で進めていきます。また、実践にあたっては、他校の教員と連携し協働的に授業構想をいたしました。

Zone A SSH 研究成果報告

—5年間の研究開発から得られた視点とは?—

本校第3期SSHでは、「多角的・複合的な視点に基づいて他者と協働し、分野を超えた新しい価値創造をする力」として「共創力」を定義し、「共創力を備えた科学技術イノベーターの育成」を目指してきました。課外での研究活動を行うサイエンス研究会の生徒の姿をロールモデルに位置づけ、全生徒を対象とした理科・数学科融合授業や課題研究の実施、企業や大学と連携したサイエンス研究会の育成など、イノベーターを育成するためのカリキュラムを開発しています。ここでは「異分野融合型カリキュラム」と「課題研究のロールモデルづくり」の2つのコーナーを設け、5年間の取り組みの成果と課題について報告します。

Zone B 学校改革

—だれのための学校改革?—

2019年1月の「ガイドライン」発表(文科省)及び4月の改正労働基準法の施行によって、学校現場においてもいわゆる「働き方改革」の実体化が求められ、教員の労働条件改善の気運は高まりつつあると言えるでしょう。とはいえ削減としての「改革」ばかりが先行し、学校が魅力を失っては意味がありません。このZoneでは、「働き方改革」を進める学校管理職・行政職員、学校を生活や仕事の場とする生徒・一般教職員、そしてそれを見守る保護者が集い、多くのステークホルダーにとって前向きと思える「学校改革の行方」を模索いたします。

【ゲスト】内田 良先生(名古屋大学 教育学部 准教授)

Zone C 高大接続カリキュラム

—異学年合同の文理統合探究「PICASO コース」—

奈良女子大学と附属中等教育学校では、今年度から、5・6年が異学年合同で探究活動を行う文理統合探究コース「PICASO」を開発しています。これは、大学入試改革や新しい学びなどの教育改革に対して、大学教員と附属中等教員が教育課程・評価基準・授業実践について、共同でカリキュラム開発を行っているものです。本発表では、カリキュラムの概要と実施1年目の実践内容について、大学教員と附属教員が各自の視点から報告します。また、全国の事例などから高大接続について情報交換を行うことができると考えています。

Zone D 探究—新しい学びの形

—総合探究・問いを軸とした教科学習・PBL—

このZoneでは、新学習指導要領で求められている「探究的な学び」を実現する方策を、3つの学習領域を対象として、具体的な実践を通して提起したいと思います。

まず全体会では、「総合的な学習の時間」と「総合的な探究の時間」は違うのか、生徒たちの活動をもとに、自己の在り方生き方と一体的な探究活動の姿を提示します。

続いて「教科領域」と「PBL」の二つの分科会を設けて、前者では日本史を題材に「本質的な問い」の立て方や授業構造を探究的に転換する工夫などを模擬授業形式で提起し、後者では新カリキュラム構想をもとに、本校の目指すプロジェクト型学習(Project Based Learning)について、実践例を交えながら紹介したいと考えています。

【ゲスト】笹岡 勇也先生(奈良県教育委員会 指導主事)

生徒による学習成果報告会 / SSHポスター発表Ⅰ・Ⅱ / SSH企業・大学連携

【学習成果報告会】 国際交流や学校行事(学園祭、生徒会など)の学びを中心に報告します。

【SSHポスター発表Ⅰ・Ⅱ】 「Ⅰ」は主に授業における課題研究の成果発表です。

「Ⅱ」は主にサイエンス研究会における課題研究の成果発表です。

【SSH企業・大学連携】 ポスター発表の時間を利用して夏休みに企業・大学と連携し、6校の生徒が協働して取り組んだ多分野融合型課題解決ワークショップの報告を行います。(なお、本事業はSSH交流会支援枠に採択されています。)

「人と関わるロボットの研究と人間理解」

講師 石黒 浩 先生 (大阪大学教授 未来思考学会代表理事)

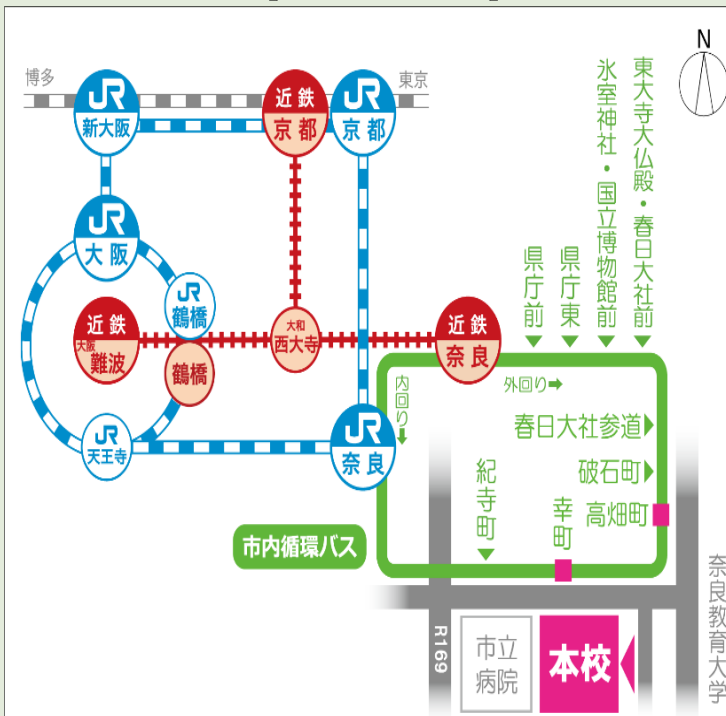


技術開発は生活を豊かにすると同時に、人間や人間社会について新たな理解をもたらす。特に人間らしい姿形で人間と関わるロボットは、日常生活において、身振り手振り、表情、言語を用いて、新たな対話サービスを提供する。その一方で、この対話サービスを提供するロボットと関わることで、人々はロボットに感情や知能や意識を感じる。この感情や知能や意識は、人間にとって非常に重要な問題であり、だれもが感じるものであるにも関わらず、その仕組みは複雑で未だ明らかにされていない。ロボットはこのような人間や人間社会に関する複雑な問題を理解する手段になる。ロボットと関わることで、感情や知能や意識を感じることができたのなら、そのロボットの仕組みをもう一度調べることで、感情や知識や意識とは何かを理解できる可能性があるのである。

このように技術開発とは、人間にとって単に便利な社会を提供するものではなく、人間や人間社会の理解を目的とするものである。豊かな技術に支えられた現代においては、特に、人間や人間社会の理解が重要となる。「技術の時代」から「思考の時代」へと我々の社会は向かっている。

人間の生きる目的とは、人間や人間社会について知ることでないのだろうか。この講演ではロボット研究を通して、どのように人間が理解できるかを議論するとともに、これから来る「思考の時代」に向けた未来思考学会の活動について紹介する。思考の時代においては、特定の枠の中で知識や技術を学ぶことだけでなく、むしろ特定の枠にはまらず自由に発想することが重要になる。

【本校へのアクセス】



【お申込みについて】

《 参加対象者 》

- (1) 初等・中等教育(小・中・高)の教員
- (2) 中等教育を対象とする学習活動を展開されている方
- (3) 教員を目指している学生
- (4) 研究者
- (5) その他、教育に関心をお持ちの方

《 参加申し込み方法 》

本校ホームページから 締め切り：2月7日(金)
<http://www.nara-wu.ac.jp/fuchuko/>
 2月15日(土)お弁当(1000円)が必要な方は、
 参加申込み時に、同時にお申込みください。

《 情報交換会について 》(2000円 当日支払い)
 14日(金)に情報交換会を行いますので、ご希望の方は事前にお申込みください。全国の教員の方々との貴重な情報交換の場になればと考えておりますので、多数のご参加をお待ちしています。

《 問い合わせ先 》

630-8305：奈良市東紀寺町1丁目60-1
 電話番号：0742-26-2571
 担当者：平田 健治(研究部主任)
 Eメール：kenji@cc.nara-wu.ac.jp



お申し込みフォーム



お問い合わせメール

附属中等教育学校

JR 大阪から快速/約50分	JR 奈良 (5番のりば)	市内循環バス 約15分	高畑町/徒歩2分 幸町/徒歩1分
JR 京都から快速/約45分			
近鉄京都から特急/約35分	近鉄奈良 (1番のりば)		
大阪難波から特急/約30分			